

令和6・7年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校

研究主題

時代に応じた人材育成を図る

3年間を見通したカリキュラムの構築

～キャリア教育を柱として、総合的な学習の時間や特別活動等を利用し、

生徒の非認知能力を高める実践～

練馬区教育委員会 教育長 三浦 康彰

今日、予測困難な社会の変化の中で、子供たちに自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越えて人生を切り拓いていく「生きる力」を育むことが強く求められています。こうした背景を踏まえ、本校では令和6・7年度の2年間にわたり、研究主題を「時代に応じた人材育成を図る、3年間を見通したカリキュラムの構築」とし、キャリア教育を柱とした「生きる力」を育むための教育活動を推進してきました。

研究では、ICTを効果的に活用し、全学年でプレゼンテーションの作成・発表をゴールとした探究的な学習を展開したり、地域社会や職業について「調べる・まとめる・伝える」活動を各学年で系統的に構成したりしました。また、学校行事等の機会を生かした異学年交流を積極的に取り入れ、多様な他者と相互にフィードバックを行った上で評価指標である「ルーブリック」を導入・活用し、生徒が自らの学びの過程や習熟度を客観的に振り返ることをできるようにしました。

各実践を通して、自ら目標を立てて行動する力が向上したことや、粘り強く学びに取り組む姿が見られるようになったことは、本研究の大きな成果であると考えます。

結びに、本校の研究に対し温かくご指導いただきました、熊本市立西原中学校 栄養教諭 松岡 珠美 先生に深く感謝申し上げますとともに、本研究に取り組まれた 宮田 健史 校長をはじめ、教職員の皆様に敬意を表し、あいさついたします。

練馬区立南が丘中学校 校長 宮田 健史

急速に変化する社会において、生徒たちが未来を切り拓く力を身に付けることは学校教育の最重要課題です。さらに私たちは教科等の学力だけでなく、様々な力を伸ばす働きかけを生徒たちに行っています。これらの働きかけは、3年間を見通した活動であり、PDCA サイクルの中で、より効果のある活動にしています。しかし、本校ではコロナ禍で、特に総合的な活動の時間は学年ごとの活動となり、学校としての指導の一貫性が大きく揺らいでしまいました。

そこで、令和6・7年度 練馬区教育委員会教育課題研究指定校の指定を受け、キャリア教育を「生きる力をはぐくむ教育活動」として、総合的な学習の時間や特別活動を研究の柱に据えました。そして、これまでの活動を整理し、3年間の系統的なカリキュラムを再構築するとともに、活動を科学的に評価することに取り組んできました。

研究を進める中で、社会が求める人材、大学が求める学力等にも触れ、探究型学習の意義を改めて理解し、学びの評価方法を工夫して行ってきました。その中で、これらの活動は「学ぶ意欲」「協働する力」などの非認知能力の向上に効果があるということが、次第に分かってきました。

次期学習指導要領の論点整理でも、探究型学習の質の向上が求められています。本校の実践が、各校の総合的な学習の時間や探究型学習の推進に少しでも寄与できることを願っています。



練馬区立南が丘中学校

I 研究構想図

教育目標

- 一、進んで学び、深く考え、積極的に行動する人
- 一、思いやりの心を持ち、互いに協力する人
- 一、心身ともに健康で創造力のある人

生徒の実態

- ・素直で、与えられた課題には、意欲的に取り組む。その反面、自主的な行動ができる生徒は少ない。
- ・自己肯定感が低く、自己表現の苦手な生徒が多い。

研究主題：時代に応じた人材育成を図る、3年間を見通したカリキュラムの構築

目指す生徒像：将来への希望と在り方を見付けられる生徒・自ら課題を見付け、解決し、表現できる生徒

目指す学校像：エビデンスを基に教育活動を振り返り、次の課題を見付け、常に改善を続ける学校

研究仮説：3年間を見通した一貫性のある探究型学習や表現活動を重視した総合的な学習の時間と特別活動のカリキュラムを作成し、それらに科学的な面からの評価・改善を取り入れることで、生徒の生きる力の育成に向けた学びがより確実になる。

研究方法

1 キャリア教育を柱に一貫性のある総合的な学習の時間と特別活動の再構築（振り返りと再構築）

- キャリア教育、総合的な学習の時間の理解
- R2～5年度の振り返り
 - ・各学年における総合的な学習の時間と特別活動の目的、活動、成果の確認
 - ・各活動の精選と生徒に身に付けさせたい力の検討
- 3年間を見通した活動の構築を見据えた年間指導計画の作成

2 探究型学習の意義と指導方法の工夫（Ai GROWの活用）

- 探究型学習の意義とその理解
- 総合的な学習の時間における探究型学習の課題・指導方法の充実
- 総合的な学習の時間、特別活動の評価方法、探究・実践

3 プレゼンテーション力の育成・伸長（評価の検討）

- プレゼンテーションの理解
- プレゼンテーション指導の実践
- フィードバックと評価
- プレゼンテーションの実践と評価の検討

2 研究の概要

行事等の特別活動 探究型の学習 《学ぶ楽しさ・学ぶ意欲》

- 総合的な学習の時間・特別活動の意義の再確認・捉え直し
- 総合的な学習の時間・特別活動における内容の見直し
- 3年間を見通したカリキュラムの再構築

プレゼンテーション 表現 《あり方・伝え方（＝相手を考える）》

- 「生きる力」の一つとしての「伝え方」の工夫の検討
- 生徒が表現する題材としての「行事」の目標確認、事前・事後学習の指導方法の研修
- スライド・Canva等、表現ツールとしてのタブレット活用

キャリア教育

Ai GROW 《非認知能力・各活動の効果測定》

- 非認知能力の確認、測定ツール（Ai GROW）の把握
- Ai GROWの結果の見方、活用例を学ぶ
- データからの生徒の変容の見取り方の研修

ルーブリック フィードバック 《学びの目標・学びの促進》

- 効果的な表現方法の工夫と指導方法の検討
- 発達段階に応じたルーブリックの検討と実践
- 生徒及び家庭へのフィードバックの実践

3 Ai GROW による検証

【集計結果より】(Institution for a Global Society 株式会社による分析)

- ・ 2・3年生は今年度だけでも非認知能力の数値の伸びが見られるが、昨年度からの経年変化を見ても、全体的に数値が伸びている傾向が見られる。
- ・ 1年生では非認知能力の数値が全体的に伸びている傾向にある。特に自己効力の項目が上昇しており、物事に対して自信を持って取り組めるようになってきている傾向があると考えられる。
- ・ 異学年交流による1年生から3年生までの「縦のつながり」を意識した取組が、各活動において臨機応変に対応することができる柔軟性を伸ばしている。また各活動を通して活躍する場が増えることで、生徒の個人的実行力や自己効力の向上に寄与していると考えられ、今後も伸びが期待できる。

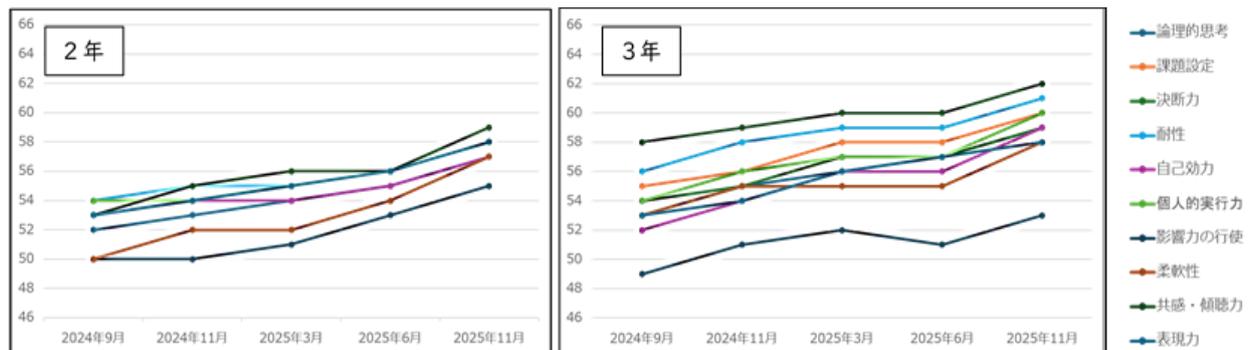
【本校の考察】

- ・ 特別活動(行事)や総合的な学習の時間の振り返りについて、「ルーブリックに基づいた相互評価」や「一言コメントによるフィードバック」を意識して実施したことで、根拠に基づいた適切な評価や自己の発表に対する前向きなコメントが、生徒の自己肯定感向上に寄与していると考えられる。
- ・ 運動会や文化発表会における「縦割り練習」や他学年への「乗り入れ発表」、効果的な「パブリックスペースへの作品掲示」など、異学年交流を意識した活動を積極的に実施したことにより、先輩の良い見本(例示)を見た後輩学年の「非認知能力への訴求」を促したと考える。

【令和7年度の各学年計測結果(平均値)】



【現2・3年の経年比較(平均値)】



【Ai GROW について】

Ai GROW は、Institution for a Global Society 株式会社が開発した非認知能力・コンピテンシー(行動特性・気質)を数値的に捉える評価ツールである。全国の自治体や企業でも採用されている。

本校では令和6年度より年度当初に「気質診断」、大きな行事の後や学期末に「自己・他己評価」を行い、その結果を生徒・保護者へ面談を通じてフィードバックしている。



4 各学年の取組紹介

【第1学年】～「自分らしく生きて働く力」を生徒自らが探究する活動・調べたことを「わかりやすく伝える」プレゼンテーションの基礎力を培う～

- 職業調べ／スライド作成の基礎
自ら興味をもつ職業について調べ、4枚のスライドにまとめ、2～3分のプレゼンテーションを行い、簡易なルーブリックを参考にして評価を行う。
→クラス代表による学年内発表会を実施する。
- 上級学校調べ／Canvaによるポスター作成の基礎
自ら興味をもつ上級学校について調べ、Canvaでポスターを作成し、簡易なルーブリックを基に、ポスターセッションを実施し、作品を評価し合う。
→生徒一人ひとりが10作品を選び、集計する。優秀作品を発表する。
- 校外学習（鎌倉）／プレゼンテーションの基礎
行動班で「旅行記」をCanvaの編集機能なども用いて5～6枚のスライドにまとめ、各班で4分程度のプレゼンテーションを行う。ルーブリックを参考に相互評価を実施する。→クラス代表による学年内発表会を実施する。



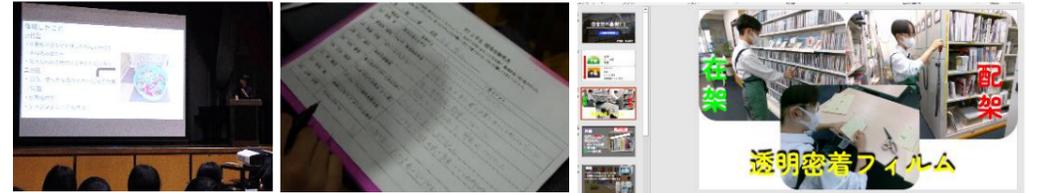
《他学年への乗り入れ発表》

○職場体験の報告発表会に1年生が参加し、2年生の発表を聞いた後に「一言コメント」を入力して、発表生徒にフィードバックする。
(感想の例)
「スライドで吹き出しやモーションを使っていて見やすく、体験の良い所が分かった」
「仕事をするやりがいを見付け出すことができたのが凄いなと思った」



【第2学年】～職場体験をテーマとしたプレゼンテーションの実践・明確な基準（ルーブリック）を踏まえプレゼンテーションの質を高める～

- 職場体験／学びを深め、得たものを分かりやすく伝える
1年次の「職業調べ」の学習内容を踏まえて、少人数（2～4名）のグループで、希望する職種へ職場体験を実施する。事前・事後学習を通じて、働くことの意義や生き方への考えを深め、個人で6枚程度のスライドを作成し、クラス内でプレゼンテーションを実施する。ルーブリックを基に選考されたクラス代表による発表会に1年生も同席し、2年生の「プレゼンテーション」を見せる。1年生から寄せられた「一言コメント」で学びを客観的に振り返る。



【異学年交流を意識した取組】

《ICTを活用した情報共有・意見交換》

- 一言コメント
運動会・文化発表会等の行事、総合的な学習の時間の発表等の際に、学年やクラスを超えて「一言コメント」をGoogleフォームへ入力し、まとめを一人ひとりにフィードバックする。
- がお中アーカイブ
学年・クラスの作品（PDF・スライド等）をGoogleドライブに保存し、生徒が閲覧できる環境を作り、次年度の取組への参考とする。

職場体験 プレゼンテーション ルーブリック 改訂版

	A	B	C	D
①話し方	声の大きさや話すスピードが適切で聞きやすい。最後まで最後まで話している。	声の大きさが聞き取りやすい。最後まで話している。	声の大きさが聞き取りやすい。最後まで話している。	声の大きさが聞き取りやすい。最後まで話している。
②話し方のまとめ（スライド、構成など）	スライドが発表内容に適切で読みやすい。構成が明確で聞き取りやすい。	スライドが発表内容に適切で読みやすい。構成が明確で聞き取りやすい。	スライドが発表内容に適切で読みやすい。構成が明確で聞き取りやすい。	スライドが発表内容に適切で読みやすい。構成が明確で聞き取りやすい。
③発表内容のまとまり（情報量、構成など）	発表内容がまとまりよく、聞き取りやすい。必要な情報を簡潔に伝える。	発表内容がまとまりよく、聞き取りやすい。必要な情報を簡潔に伝える。	発表内容がまとまりよく、聞き取りやすい。必要な情報を簡潔に伝える。	発表内容がまとまりよく、聞き取りやすい。必要な情報を簡潔に伝える。
④働くことの意義	働くことの意義について、自分の考えを明確に説明できる。	働くことの意義について、自分の考えを明確に説明できる。	働くことの意義について、自分の考えを明確に説明できる。	働くことの意義について、自分の考えを明確に説明できる。

《ルーブリックの検討・活用》

生徒の成長や習熟度に応じた「ルーブリック」を2学年の教員で検討し、職場体験の発表で活用した。今後、他学年にも応用する。

【E組】～自立を意識したキャリア教育の推進とまとめ・研究主題のキーワードである「時代に応じた人材育成」を念頭に「自らが生きる道を切り拓く力を身に付ける」ため、特別支援学級からのアプローチを行う～

- 校外学習《将来的な自立に向けて》／東京駅・国立科学博物館見学
事前学習で公共交通機関でのマナーや使用時の注意、案内板の見方などを確認する。当日は各班で決めた経路をしおりに記載し、その経路通りに目的地まで移動し、その様子を教員が見守る。見学地内のオリエンテーリングで、何かを探す、メモを取る、確認することを実地で学ぶ。
- 進路学習《特別支援学級卒業後の具体的な進路》
3年間を通じて上級学校訪問2校（特別支援学校普通科、就業技術科または職能開発科）と職場訪問（1か所）を実施して、必ず生徒自身が体感できるように取り組む。
- 進路学習《「働くこと」の意義》／職場訪問（クロネコヤマトミュージアム）
見学地内で荷物の積み込み作業についてのレクチャーを受け、実際の制服を着て作業に取り組む。また実際の配送車両へ乗車して体感し、業務について職員から説明を受け、「働くことの意味」を体験から学ぶ。



【第3学年】～「社会の中で生きる力の育成」を重視した様々な表現活動・これまでのスキルを高め、「自己の考え・想いを表現できる」生徒を育てる～

- 修学旅行／スライド作成・フォトコンテスト
事前学習（見学地テーマを分担した調査）・事後学習（訪問先の感想と得た学び）を個人でスライドにまとめ、掲示する。また、旅行中のスナップからテーマ「みんなが主役」・「時を超えた風景」・「旅の珍百景」にあった画像を選び出し、投票によるセッションを行う。
- 句作・詠む活動（国語科）／折々のテーマによる俳句・短歌
年間を通じて、行事や区切りのタイミングで、生徒自らの想いを俳句や短歌等の限られた字数で綴る。学年フロアへ掲示して、学年通信などでも共有する。
- 動画作成（技術科）／社会貢献のためのシステム開発
生活や社会を「少し良くする」というテーマで、グループで「マイクロビット（プログラミング教育のために開発された教材）」を活用したシステムを提案し、紹介動画を作成する。（下の画像は生徒が発案したシステムの一例）



5 成果と課題

生徒

【成果】

- ・ Ai Grow で確認できる非認知能力全ての項目で、数値的な向上が見られた。
- ・ グループでの学習方法や発表方法を、実践を通しながら身に付けられた。
- ・ 「個人的実行力」の向上により、学びに向かう力を高められた。

【課題】

- ・ 課題や活動の継続を意識したり、将来の自分の在り方を考えたりして、学びの目的や目標を意識して学習する意欲はまだ低い。
- ・ 様々な表現活動において、自分の在り方（プレゼンス）を意識して表現することにより、学びを更に充実させていく必要がある。

教員

【成果】

- ・ 小集団への指導方法をいくつか実践しながら習得することができた。
- ・ プレゼンテーション指導や評価方法の理解を深め、スキルも高めることができた。

【課題】

- ・ 生徒の発表に対するフィードバックについて質のさらなる向上が必要である。
- ・ 探究的学習の活動やそれに伴う表現活動などの取組は、生徒指導提要の4つの視点の3つ（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供）と連携していることへの意識を高める必要がある。

学校

【成果】

- ・ 総合的な学習の時間や特別活動における系統化された3年間のカリキュラムを作成することができた。
- ・ 総合的な学習の時間や特別活動において科学的な評価方法を利用し、その結果を活用することができた。

【課題】

- ・ 総合的な学習の時間や特別活動の系統化されたカリキュラムの活動および取組を地域や保護者へより明確に発信し、各学年の学びを地域や保護者からも理解・支援される活動にして行く必要がある。

●ご指導ご協力をいただいた方●

熊本市立西原中学校 栄養教諭

Institution for a Global Society 株式会社

湘南ゼミナール 高等部/総合型・学校推薦型コース 責任者

I M A R I 共育センター 所長

公益財団法人 日本進路指導協会 理事

松岡 珠美 様

小川 侑希 様

川村 一雄 様

福井 秀平 様

関本 恵一 様